

令和2年6月10日(水)  
水産課 総務・栽培推進グループ  
担当 湯谷、藤原(内線3954)  
ダイヤルイン 087-832-3474  
当日連絡先 090-7624-2071

# サワラの稚魚を放流します

はるいお  
讚岐の春魚「サワラ」の資源回復を目指して、さぬき市小田において  
中間育成\*したサワラ種苗を放流します。

\*生産した稚魚を、自然環境下で生き延びる力が高まるまで、さらに大きく育てること

- **日時** 令和2(2020)年6月14日(日) 10:00~13:00(雨天決行)
- **場所** 香川県クルマエビ等大規模中間育成施設(さぬき市小田610-4)
- **内容** 中間育成したサワラ種苗約2万尾(全長約70mm)を放流予定。  
(中間育成施設から囲い網で追い込み、直接海面へ放流します。)

※なお、例年開催している「サワラ放流祭(放流式典、食育教室)」は、  
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止します。

## ○ 今年度のサワラ種苗生産の状況

月 日	内 容
5月 7, 8日	<ul style="list-style-type: none"><li>● 県有船2隻(ことぶき、やくり)にて採卵を実施。</li><li>● 受精卵約127万粒を確保し、「国立研究開発法人 水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所屋島庁舎」にて種苗生産を開始。</li></ul>
6月4日	<ul style="list-style-type: none"><li>● 瀬戸内海区水産研究所屋島庁舎から、中間育成のため種苗をとりあげ、さぬき市小田の中間育成施設に3万3千尾を収容し、中間育成を開始。</li></ul>
6月14日	<ul style="list-style-type: none"><li>● <u>さぬき市小田の中間育成施設から中間育成したサワラ種苗約2万尾(全長約70mm)を放流予定。(尾数、全長ともに推定値)</u></li></ul>

○ 参 考

＜これまでのサワラ資源回復への取組み状況＞

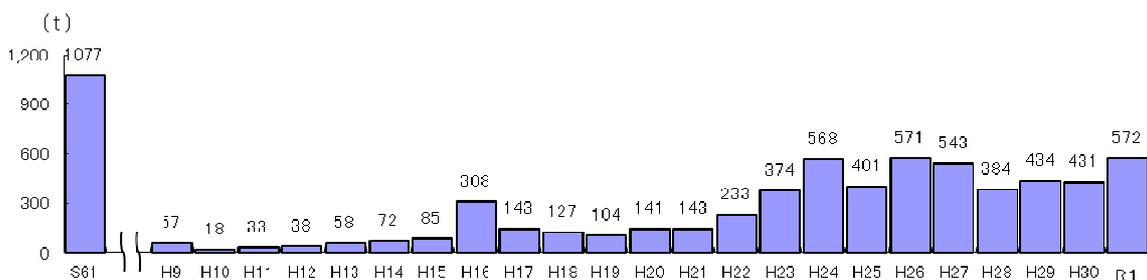
サワラの漁獲量の激減に危機感を持った本県の漁業者は、平成10年から秋漁の休漁、網目の拡大による小型魚の保護などを積極的に行ってきました。

また、現在の国立研究開発法人水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所屋島庁舎（以下「水研屋島」）は、漁業者の熱望を受け、「サワラ種苗生産」を再開しました。一方、県は、水研屋島へサワラ受精卵の提供を行うとともに、全国に先駆け中間育成技術・放流技術開発等に積極的に取組み、放流した種苗が翌年に瀬戸内海に回帰することを確認し、サワラが回遊魚であることを世界で初めて証明しました。

本県から始まったサワラの種苗放流は、国の「サワラ瀬戸内海系群資源回復計画」に基づき、平成14年度から23年度まで瀬戸内海で広く実施されました。

平成24年度からは、瀬戸内海沿岸11府県（大阪府・兵庫県・和歌山県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・愛媛県・福岡県・大分県・香川県）および（公社）全国豊かな海づくり推進協会をメンバーとした「瀬戸内海海域栽培漁業推進協議会」において、各府県が協力してサワラの種苗放流を続けています。

これら、多くの資源回復の取組により、サワラ資源量の推移は中位と評価され（令和元年度サワラ瀬戸内海系群の資源評価調査）、サワラ資源は回復に向けて着実に進んでいます。



香川県のサワラ漁獲量の推移

※香川県農林水産統計年報より  
(R1のみ水産試験場のデータ)

＜中間育成結果（香川県クルマエビ等大規模中間育成施設）＞

年度	育成期間	收容尾数 (千尾)	收容時の全長 (mm)	取揚尾数 (千尾)	取揚時の全長 (mm)	生残率 (%)
27	6/9 ~ 6/20	19.4	37.4	10.0	87.5	51.5
28	6/6 ~ 6/15	32.0	35.7	25.3	73.7	79.0
29	6/6 ~ 6/17	15.7	42.4	13.1	83.6	83.4
30	6/6 ~ 6/16	23.2	37.5	18.8	72.8	81.0
元	6/5 ~ 6/15	23.6	42.0	17.6	75.3	74.6

【地図】

